

JACET は社団法人大学英語教育学会 (The Japan Association of College English Teachers) の略称です。本学会は、大学などの高等教育機関における英語教育関連の研究・実践の発表の場を提供し、調査・研究等を通じて、我が国の英語教育の発展に寄与することを目的として活動しています。

社団法人大学英語教育学会

**JACET**

事務局

162-0831 東京都新宿区横寺町 55

phone: 03-3268-9686

fax: 03-3268-9695

webpage: <http://www.jacet.org/>

email: [jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)

大学英語教育学会(The Japan Association of College English Teachers、以下、JACET)は1962年の設立以来、今日まで大学における英語教育全般に関する諸問題を総合的に調査・研究し、英語教育の改善と進歩に努力して参りました。現在、会員は約2,800名で、本部を中心として、北海道・東北・関東・中部・関西・中国/四国・九州/沖縄の7つの支部で構成されています。

本学会の通常の活動としましては、大会・セミナーなどの開催、紀要・通信などの発行、40を超える研究会活動、実態調査・授業学・ICTなどの特別委員会活動、およびその刊行事業などがあります。そして、これらの成果の一部として、国内的には文部省(文部科学省)に英語教員養成をはじめとする外国語教育政策に関するさまざまな提言を出してきました。また、国際的には1999年の東京での国際応用言語学会の世界大会(AILA)の主催や2008年の福岡でのAsia TEFLの後援、そして、英国・シンガポール・マレーシア・中国・韓国等の学会との交流を進めてきました。2008年8月からは、文部科学省に社団法人として認可された法人格として、事業や活動がますます公益に資するようになっています。この一環として、2011年には第50回記念国際大会を開催します。また、創立50周年記念を迎える2012年までには「英語教育学大系」全13巻の刊行を完結すべく、順次、刊行しています。

大学教育は、1991年の大学設置基準の大綱化以降、大きく多様化してきています。各大学の独自の工夫による個性化が求められている上に、国際化・情報化・専門化に加えて、「大学全入時代」による大衆化の様相を帯びてきたからです。これは英語教育も例外ではありません。たとえば、一層の国際通用力強化で英語による授業の実施などが求められる反面、小・中・高の英語教育を受けて語彙・文法などの基礎・基本の完成も求められています。「専門」英語強化型と「教養」英語維持型へと分化しつつあるともいえます。

これらの新しい局面にあって、JACETはこれまで以上に関連諸分野・諸機関と連携をする必要があります。「縦」の連携では、大学英語教育の前段階である幼・小・中・高の英語教育、そして、後に続く大学院・社会(企業)の英語教育と連絡を取り合う必要があります。また、「横」の連携では、国語教育・日本語教育・ドイツ語教育・フランス語教育・中国語教育・韓国朝鮮語教育さらにはエスペラント教育など多くの言語教育および関連諸科学とも協賛し合う必要があります。このような総合的な教育研究の核の一つとして、JACETはこれまで以上にその役割を果たしていきたいと念じています。大学英語教育の関係者のみなさんはいうまでもなく、広く言語教育に関係しているみなさんの参加をお待ちしています。

神保尚武

## 沿革

JACETは1923年に設立された(財)語学教育研究所を母体として生まれました。戦後の新学制の発足とともに、大学における英語教育に関する諸問題を総合的に調査研究し、我が国の大学英語教育の改善と進歩に力を合わせて寄与していこうとする機運が高まり、1962年に大学教育部門が語学教育研究所より独立して大学英語教育学会が設立されました。

当初は、毎年秋の大会と会報の発行が中心でしたが、1967年にフルブライト委員会の協力により夏期セミナーを開催したことを契機として活動が拡大しました。

1972年から関西支部、東北支部、中部支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部、北海道支部と順次各地方支部が設立され、2006年に関東支部ができたことにより、本部と7つの支部が揃い、現体制が確立しました。

会員数は、創設当初は120名でしたが現在は約2800名となっています。現在の主な活動としては、年に1回の全国大会と夏季・春季セミナー、大学英語に関する各種の調査研究、JACET賞の授与、紀要・学会誌の発刊、国外の学術団体との交流などがあり、また、40を超える専門研究会が活発に活動しています。

これまで、1990年に大学入試センター試験に音声テストの導入を提言し、文部科学省、臨時教育審議会、大学審議会にも提言をし、1999年には東京で国際応用言語学会（AILA）の世界大会を開催しました。1991年には日本学術会議に学会として登録されています。さらに、2008年に社団法人となり、社会的責任をもって我が国の大学英語教育の質の向上に貢献するための様々な教育・研究活動を展開しています。

## 事業

- 大学英語教育及び言語教育関連の研究・実践発表大会、セミナー等の開催
- 紀要、学会誌等の出版物の刊行
- 大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動の表彰及び協力
- 大学英語教育及び言語教育関連の理論及び実践方法に関する調査・研究
- その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業

## 組織と活動

- 組織**
- ・ **理事会** 会長 神保尚武／副会長 岡田伸夫 寺内一／石田雅近 大森裕實 尾関直子 木村松雄 小嶋英夫 小宮富子 笹島茂 芝垣茂 原田園子 高井收 高橋恒一 中野美知子 野口ジュディー津多江 松岡博信 見上晃 南出康世 山内ひさ子 山岸信義 山口光
  - ・ **監事** 椿忠男 矢田裕士
  - ・ **本部運営委員会** 代表幹事 尾関直子 / 他本部幹事 11名
  - ・ **事務局**
  - ・ **7支部** ※（ ）は支部長  
北海道（高井收） 東北（小嶋英夫） 関東（中野美知子） 中部（小宮富子）  
関西（野口ジュディー津多江） 中国・四国（松岡博信） 九州・沖縄（山内ひさ子）
  - ・ **特別委員会**（ICT 調査研究、実態調査、50周年記念関連など）
  - ・ **43研究会**（教育問題、ESP、語彙指導、授業学、言語教師認知など）
  - ・ **会員** 約2,800名（一般会員、団体会員、賛助会員、名誉会員）  
※ 名誉会長 梶木隆一 / 特別顧問 小池生夫 / 他顧問 12名

## 主な活動

- **全国大会の開催** 毎年9月に全国大会を開催し、約1,000名の参加者を集め、大学英語教育及び言語教育関連の学術研究や実践発表を実施しています。海外からの招待講演も実施。  
2010年度第49回全国大会は、「明日の学習者、明日の教師—大学英語教育における学習者と教師の自律的成長—」というテーマで、2010年9月7,8,9日の3日間、宮城大学大和キャンパスで開催される。
- **セミナーの開催** 春と夏の2回、国内外の講師を招き、英語教育及び応用言語学等の最新の研究や実践を学び、英語教育の改善に資することを目的として開催。最近のサマーセミナーの主な講師は、Geoffrey Leech, Simon Borg, William Grabe, Alistair Cumming, Michael McCarthy, Andrew Cohen, Dan Douglas, Rebecca Oxfordなどで、2010年度までで38回開催されている。
- **支部大会の開催** 全国7支部それぞれが地域の実態に即した内容について、大学英語教育及び言語教育関連の学術研究や実践発表を実施しています。
- **『紀要(JACET Journal)』の発行** 年2回発行し、現在50号。3,000冊を会員に配布。ウェブサイトには目次を掲載。
- **『JACET 通信』の発行** 日本語版と英語版を年5回発行し、現在は173号。会員に配布。ウェブ

ウェブサイトにも掲載。その他 各支部でも紀要や年報、ニューズレターの発行。

- 海外提携学会 KATE、ALAK、PKETA（韓国）、MELTA（マレーシア）、ETA-ROC（台湾）、RELC（シンガポール）、IATEFL（英国）、AILA（国際応用言語学会）
- 研究会

43の研究会がそれぞれの専門分野に関連して活発に活動しています。

CALL	談話行動	授業学	リスニング
CCR	英語辞書	教材	文学教育
談話分析(北海道)	オーラルコミュニケーション	待遇表現	リーディング
ESP(北海道)	語法	ESP(中部)	ライティング指導
語彙指導	国際理解教育	ライティング	ESP(関西)
自律学習	バイリンガリズム	異文化理解	英語力指標
教育問題	ESP(関東)	CPHとSLA	英語教育総合
文学	言語政策	言語アセスメント	東アジア英語教育
SLA(関東)	Critical Thinking	教材開発	ESP(九州・沖縄)
テスト	英語語彙	海外の外国語教育	
言語接触	言語教師認知	学習英文法	
オーラル・プレゼンテーション&パフォーマンス(OPP)			

## JACET 賞

本賞は 1977 年に創設され、大学及び広く英語教育界において 研究または実践上顕著な業績をあげた研究実践に毎年与えられています。小川芳男第2代会長の寄付などを基金に始めました。学術賞、実践賞、新人賞があります。2009 年度は下記の通りです。

学術賞 大谷泰照

- ・著書 『日本人にとって英語とは何か？異文化理解のあり方を問う』。大修館. 2007.

実践賞 中野美知子

- ・業績 「早稲田大学における革新的英語教育プログラム、及び海外諸大学連携による IT 英語教育諸活動の開発、導入、実践」。

## 入会の手続き

年会費は、一般（一般）会員は 8,000 円、一般（学生）会員は 5,000 円、一般（維持）会員は 13,000 円、団体会員は 20,000 円、賛助会員（1 口）は 30,000 円です。在外の会員は年会費の他に定期刊行物郵送料として 4,000 円(航空便の場合)、または 3,000 円（船便の場合）が必要です。大学英語教育学会のウェブページから入会手続きができます。入会金は 1,000 円です。